

工芸部門 審査評

工芸部門の応募点数は前年比 4 点の増となり、微増であつてもうれしいことでした。技法・素材も年々多様化する中、各々が各自のジャンルを確立し、加えてさらに新たな傾向の作を見ることもできました。

最優秀賞の《冰雪に浮かぶ》は、厚い板ガラスによる合わせガラスを凹面に削って磨き、種子のような楕円のガラスの塊をのせた作品です。凹面には深い緑が広がり、塊は光を湛え、ガラスという素材の特質を表現するに必要な技法を備えた、簡潔でかつ美しい作です。

優秀賞の《花織着物「ヴィヴァーチェ」》は格子に花織をあしらった清楚な作で、段違いの緯糸をうまく合わせつつ、黄と水色の経の糸使いによって全体を軽やかに仕上げています。同じく優秀賞の寄木細工の《花に遊ぶ》の作者は受賞の常連ですが、花卉や雄しべ、雌しべの表現に至るまで、今年は一層の工夫と充実ぶりを見せました。

三重県市長会長賞の《阿漕浦を歩く》は手練りによる増殖的なやきものの造形ですが、皺や縮れに施された微妙な色調が有機性を増長しています。三重県町村会長賞《陽春》はワイヤーで枠を作った上に樹脂を掛けて作った、細かな小花のブーケと小さな千羽鶴ですが、その光を散らす様には、あたたかな春に迎えるめでたい日の輝きが表れています。

岡田文化財団賞《銀化壺》は炭化させたモノトーンの手練りの表面に指跡のような痕跡を残し、複雑なディテールを施した壺です。小さな高台からたつぷりと膨らんだ胴、古作を思わせる口づくりまで、バランスを整えて作られたシンプルながらも見どころの多い作です。

すばらしきみえ賞には、青海波文を様々に駆使した伊勢型紙による《波瀾万丈》、自然の恵み賞には木の色と木目、鑿跡を活かした寄木の平面作品《熊野市楯ヶ崎》が選ばれました。

最後に、for your Dream 賞には革工芸による靴の作品《革くつ》。工芸が本来用途をもつ素材の芸術であることを今一度考えさせる作であり、夢の実現に向けて新たな一步を踏み出す賞にふさわしい作となりました。

入落の境界はわずかです。その素材によって何を表現したいのか、表現するにあたって足しすぎていないか、主旨が揺らいでいないかなど、すべてのジャンルに言えることですが、工芸においては手作業の細かさや素材の美しさに終わらない、その先を目指していただきたいと思います。

工芸部門審査主任

正村美里